

科目区分	専門分野	履修学年	2 年前期	単位数	1	時間数	30
科目名	臨床看護総論			担当教員	専任教員		
使用テキスト	1)メディカ出版 基礎看護学⑤ 臨床看護総論						
テキスト以外の教材・参考書等	1) 照林社 プチナース Book 症状別観察ポイントとケア チャートでわかる 2) メディックメディア 看護が見える②臨床看護技術 3) インターメディカ 写真でわかる臨床看護技術1アドバンス 4) インターメディカ 写真でわかる臨床看護技術2アドバンス 5) 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 6) 医学書院 系統看護学講座 基礎看護学④ 臨床看護総論						
授業の概要及び到達目標							
<p><u>授業の概要</u></p> <p>臨床看護総論は、看護学概論、基礎看護技術と並び、看護の基礎となる科目である。1年時に学んだ、基礎看護学、解剖生理学、病態学の知識を基に、あらゆる発達段階や健康状態にある対象の看護が理解できるようにする。臨床に対応できる知識と技術の統合が図れるよう、事例を通して具体的に学習していく。健康障害をもつ対象の疾病の経過や症状を理解し、適切な看護を行うための基礎的知識の習得につなげる。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護活動の場と看護の役割について理解できる。 2. 各ライフサイクルにおける健康の意味について理解できる。 3. 健康期から終末期各段階に必要な看護について理解できる。 4. 健康障害が及ぼす主な症状と治療、看護について理解できる。 5. 事例を通じ急性期、回復期、慢性期、終末期にある対象の看護について考えることができる。 							
評価方法	筆記試験 グループワーク参加状況、レポート						
備考	関連科目：解剖生理, 病態学, 基礎看護学						

回数	授業計画 学習内容	備考
1	臨床看護とは 看護師が活動する領域と場 臨床看護における看護師の役割	
2	ライフサイクルからとらえた対象と家族の健康上のニーズ 小児期、成人期、高齢者	
3	経過段階と看護 健康状態の維持・増進を目指す看護 急性期における看護（クリティカルケア含む）	
4	慢性期における看護 回復期における看護 終末期における看護	
5	健康障害が及ぼす主な症状と治療看護 呼吸機能障害のメカニズムと症状（呼吸困難、急性呼吸窮迫症候群）	
6	呼吸を整えるため看護（排痰法、吸引・吸入）	
7	循環障害が及ぼす主な症状と治療看護 循環障害のメカニズムと症状と看護（発熱、胸痛、浮腫、クラッシュ症候群）	講義・演習
8	急性中毒（薬物中毒、一酸化酸素中毒）	
9	栄養・排泄障害が及ぼす主な症状と看護 栄養・排泄障害のメカニズムと症状と看護（食欲不振、便秘・下痢）	
10	造血・免疫機能障害が及ぼす主な症状と看護 造血・免疫機能障害のメカニズムと症状と看護（貧血、出血傾向）	
11	脳神経・感覚障害が及ぼす主な症状と看護 脳神経・感覚障害のメカニズムと症状と看護（意識障害、痛み）	
12	事例検討 心筋梗塞、大腸がん、脳梗塞患者の事例をもとに、グループに分かれ、急性期、回復期、慢性期、終末期の看護について考える	グループワーク
13		
14	発表・まとめ	
15	終講試験 まとめ解説	